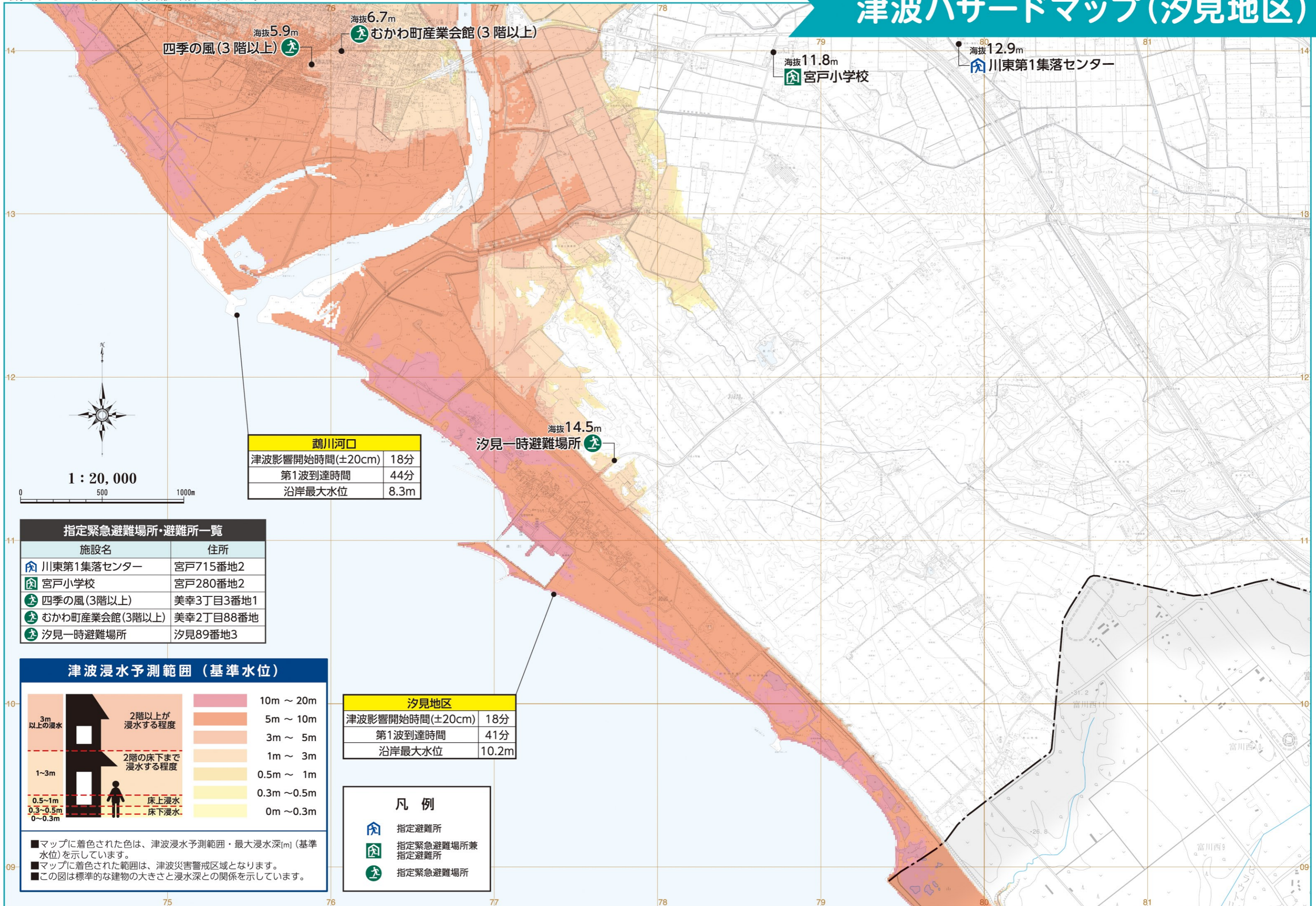


・表示しているメッシュ線は、1kmです。距離の目安にしてください。

津波ハザードマップ(汐見地区)



鶴川河口	
津波影響開始時間(±20cm)	18分
第1波到達時間	44分
沿岸最大水位	8.3m

汐見地区	
津波影響開始時間(±20cm)	18分
第1波到達時間	41分
沿岸最大水位	10.2m

指定緊急避難場所・避難所一覧	
施設名	住所
川東第1集落センター	宮戸715番地2
宮戸小学校	宮戸280番地2
四季の風(3階以上)	美幸3丁目3番地1
むかわ町産業会館(3階以上)	美幸2丁目88番地
汐見一時避難場所	汐見89番地3

津波浸水予測範囲(基準水位)

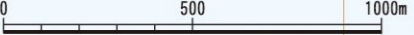
3m以上の浸水	2階以上が浸水する程度	10m ~ 20m
1~3m	2階の床下まで浸水する程度	5m ~ 10m
0.5~1m	床上浸水	3m ~ 5m
0.3~0.5m	床下浸水	1m ~ 3m
0~0.3m		0.5m ~ 1m
		0.3m ~ 0.5m
		0m ~ 0.3m

■ マップに着色された色は、津波浸水予測範囲・最大浸水深[m] (基準水位)を示しています。
 ■ マップに着色された範囲は、津波災害警戒区域となります。
 ■ この図は標準的な建物の大きさと浸水深との関係を示しています。

凡例

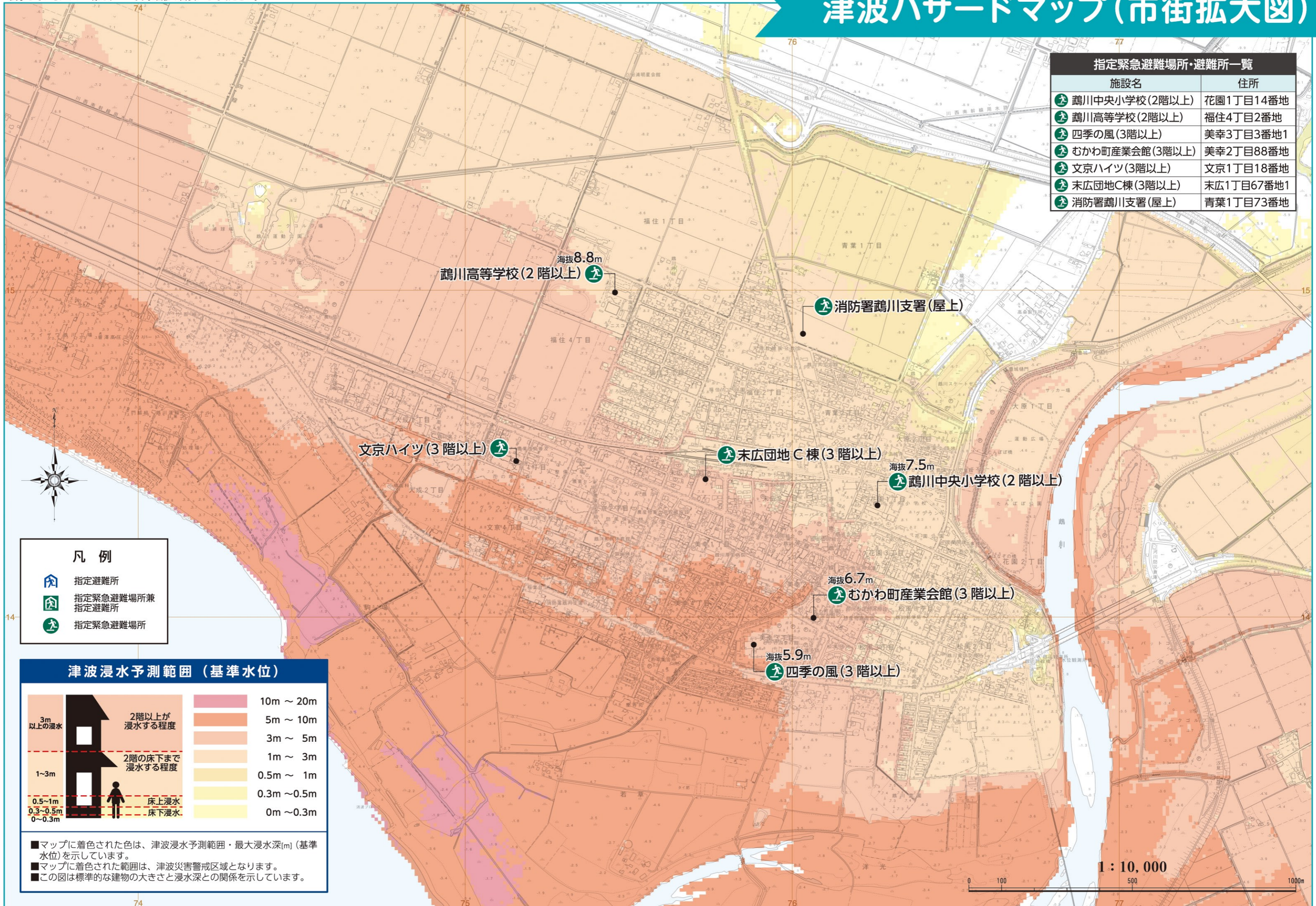
- 指定避難所
- 指定緊急避難場所兼指定避難所
- 指定緊急避難場所

1 : 20,000



津波ハザードマップ(市街拡大図)

指定緊急避難場所・避難所一覧	
施設名	住所
🏫 鶴川中央小学校(2階以上)	花園1丁目14番地
🏫 鶴川高等学校(2階以上)	福住4丁目2番地
🏫 四季の風(3階以上)	美幸3丁目3番地1
🏫 むかわ町産業会館(3階以上)	美幸2丁目88番地
🏫 文京ハイツ(3階以上)	文京1丁目18番地
🏫 末広団地C棟(3階以上)	末広1丁目67番地1
🚒 消防署鶴川支署(屋上)	青葉1丁目73番地



凡例

- 指定避難所
- 指定緊急避難場所兼指定避難所
- 指定緊急避難場所

津波浸水予測範囲(基準水位)

10m ~ 20m	2階以上が浸水する程度
5m ~ 10m	
3m ~ 5m	
1m ~ 3m	2階の床下まで浸水する程度
0.5m ~ 1m	
0.3m ~ 0.5m	床上浸水
0 ~ 0.3m	床下浸水

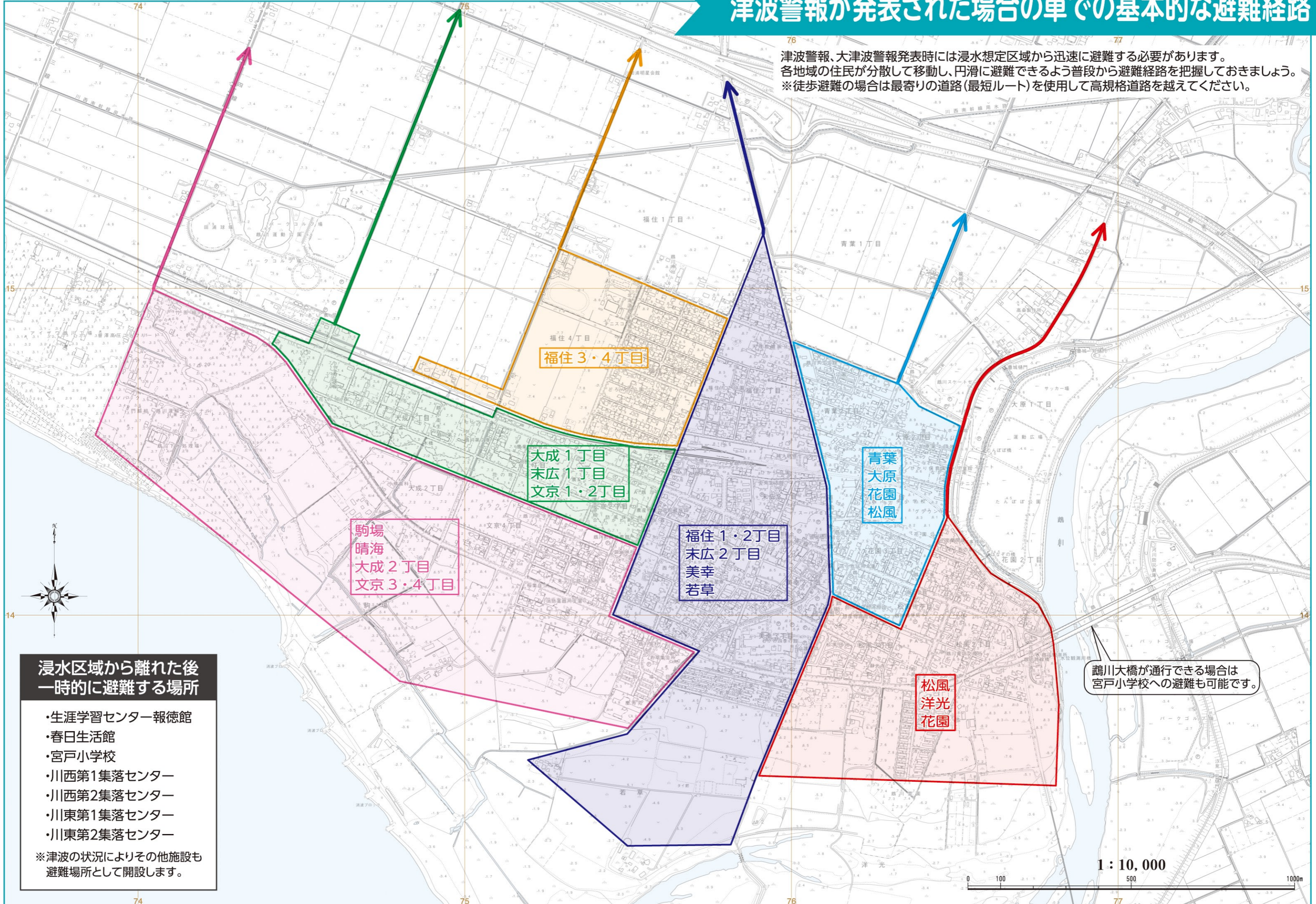
■ マップに着色された色は、津波浸水予測範囲・最大浸水深[m] (基準水位)を示しています。
 ■ マップに着色された範囲は、津波災害警戒区域となります。
 ■ この図は標準的な建物の大きさと浸水深との関係を示しています。

1 : 10,000

0 100 500 1000m

津波警報が発表された場合の車での基本的な避難経路

津波警報、大津波警報発表時には浸水想定区域から迅速に避難する必要があります。各地域の住民が分散して移動し、円滑に避難できるよう普段から避難経路を把握しておきましょう。
※徒歩避難の場合は最寄りの道路(最短ルート)を使用して高規格道路を越えてください。



浸水区域から離れた後一時的に避難する場所

- ・生涯学習センター報徳館
- ・春日生活館
- ・宮戸小学校
- ・川西第1集落センター
- ・川西第2集落センター
- ・川東第1集落センター
- ・川東第2集落センター

※津波の状況によりその他施設も避難場所として開設します。

地震対策① 地震への備え

地震は突然起こります。家族の安全と被害を最小限に食い止めるためにも日頃からの準備が必要です。家族で防災について話し合い、災害から身を守りましょう。

わが家の耐震診断



家の間取りから、水まわり、ガスの位置、電気のブレーカー、家具の位置をチェックする。また、家屋の耐震診断は専門家に相談し、補強等を実施する。

高い所に重い物を置かない



地震時の落下によるケガの原因になるので、家具の上にテレビなどの重い物を置かない。

燃えやすいものを置かない



二次災害を防ぐため、台所のガス台付近、ストーブのまわりなど、火元となる場所に燃えやすい物を置かない。

家族で話し合い



家族の役割分担や、途中で家族が離ればなれになった場合の集合場所も決めておきましょう。裏表紙の「わが家の防災メモ」に書き込みましょう。

地震の震度(気象庁震度階級)

各震度に対応して発生する現象や被害の状況できるだけわかりやすく表現しています。

《震度0》



人は揺れを感じない。

《震度1》



屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。

《震度2》



電灯などがわずかに揺れる。

《震度3》



屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。

《震度4》



ほとんどの人が驚く。電灯などが大きく揺れ、眠っている人のほとんどが、目を覚ます。

《震度5弱》



大半の人が恐怖を覚え、物につかまると感じる。棚の食器類、書棚の本が落ちることがある。

《震度5強》



物につかまらなると歩くことが難しい。補強されていないブロック塀が崩れることがある。

《震度6弱》



立っていることが困難になる。固定していない家具が移動し、倒れるものもある。

《震度6強》



はわなないと動くことができない。耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多い。

《震度7》



耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多い。

備えあれば憂いなし! 地震への備え

わが家の地震対策チェック

地震による被害を減らすために自宅の安全対策について点検しましょう。住宅の耐震性に不安がある場合は耐震診断※を行い、補強等を実施するようにしましょう。

※1981(昭和56)年5月31日以前に建てられた住宅は耐震性が低いおそれがあります。

☑ここもチェック!

ブロック塀・フェンス

破損やひび割れ、ぐらつきはありませんか?

☑ここもチェック!

ベランダ

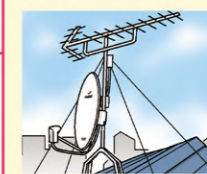
常に整理しておきましょう。

☑ここもチェック!

灯油タンク・プロパンガスボンベ

しっかりと固定しましょう。

屋根・アンテナ



屋根の破損、アンテナのぐらつきはありませんか?

窓ガラス



飛散防止フィルムを貼りましょう。

玄関まわり



避難しやすいように常に整理しておきましょう。燃えやすい物など置かないようにしましょう。

屋外

出入口や就寝位置と重ならないように家具を配置しましょう。

背の高い家具や本棚は、L型金具や支え棒などで固定しましょう。重い物は下に、軽い物は上に収納しましょう。

支え棒

家具の上に割れやすい物を置かないようにしましょう。

カーテンや寝具などは、防災加工されたものを使用しましょう。

扉にはストッパーを、ガラスには飛散防止フィルムを貼りましょう。

扉ストッパー

家具の下に転倒防止ストッパーを置きましょう。

屋内

地震時のケガの原因は家具などの転倒によるものも多く、室内の散乱は逃げ遅れの原因にもつながります。家具の配置や固定具合を見直し、安全対策に努めましょう。